



ISAP 2023

持続可能なアジア太平洋に関する国際フォーラム

2023年12月19日、持続可能なアジア太平洋に関する国際フォーラム (ISAP2023) 閉会セッションにて、「ISAPを若い世代と振り返る：50年後の私たちへ」を開催

ユース代表5名が参加

ISAPのセッションの感想と、50年後の世界の展望について発表



<https://isap.iges.or.jp/2023/jp/cl.html>

未来社会の予測（抜粋） @ISAP2023

『暮らし方 - 新しいリモートワーク』

2

リモートワークと言う概念が無くなり、世界中どこからでも人材の確保が可能になり、雇用形態も大きく変わる

1

出社の形が大きく変わり、Home Officeからバーチャルでの出社が主流になる



3

超高齢化社会やDiversityを重視する社会の流れから、アバターでの社会活動が認められるようになり、言語、身体的や年齢等から生じる社会活動のハードルがほぼなくなる

4

オフィスに出社している人間もバーチャルツールを駆使し世界中の同僚と一緒に問題なく働ける

5

各部署に数体のAI社員を配置し、労働力・Productivityはより一層強化される

『住居 - 温暖化対策』

1

建築資材を最小限にするべく、3Dスキャンや3Dプリント技術を駆使し地形や岩肌など自然と融合したサステイナブルな建築が増える、そして地下の自然冷却を活用するべく居住空間は地下へと移行

2

学校での必修科目に家庭菜園や鶏の飼育が追加され、各居住地に数羽の鶏が無料配布される、これにより食品ロスや生ごみの回収がほぼゼロになり、より自然と調和したサステイナブルな自給自足生活が推進される

3

住宅の建築資材は廃材からなる素材を3Dプリントしたパーツで組み合わせたものが主に使用され、ルーフ部分など地上に出ている箇所には透過型の有機薄膜太陽電池が多用される、電力、食料、などは自前で賄えるよりサステイナブルな生活スタイルへと移行していく

4

効率性や生産性を考慮し、一つの居住施設に数世帯の家族が共同で暮らすコミュニティー化が主流になり、地上1~2階、地下5~7階の居住空間が増加

5

政府の働きかけもあり家庭でも最低限必要な食料の家庭菜園が当たり前になる、その流れで物流の変化・化石燃料の消費量・都市部での渋滞・食品ロスの削減が秩序に表れる





ISAP 2023

持続可能なアジア太平洋に関する国際フォーラム

**** こんな発言がありました ****

1.5℃目標に向けて、様々な取り組みが進められているが、まだ不十分。目標達成に向けて、**各主体と連携して取り組みを加速化**していきたい

将来世代が「**豊かな暮らし**」を**実現**できるとよい

色々なところでユースへの期待をいただくが、**ユースだけが頑張るのではなく、協働**していきたい

